

北部地域 療育センターだより

第4号

❖ はじめに

所長 今枝 正行

当センターの運営につきましては、日頃よりの地域のみなさまの格別のご理解とご協力をいただき心から感謝申し上げます。センターだより第4号は、今年度就学されたお子さんの保護者のみなさんと催した就学後懇談会および体験発表の特集といたしました。

センターが開設された9年前は、まだ社会の発達障害の理解が限定的で、特別支援教育も実施されておりませんでした。発達に支援が必要なお子さんと保護者のみなさんの、通常学級で出会う困難への理解と支援の歴史は浅く、学校と連携しての就学準備は難しい問題でした。そうした時代にあって、就学を控えての不安や悩みを抱える保護者同士が思いを共有し、就学後も地域でのつながりを継続していただけるよう、その出会いの場の提供を意図して始めた通常学級就学前保護者懇談会でありました。

毎年の懇談会の中で特に好評いただいているのが、先輩保護者の方々をお迎えしての交流会であります。通園部と療育グループで行っている就園、就学体験発表、愛知県自閉症協会（つぼみの会）より講師派遣いただいているサポートブック作成研修会と合わせ、当センターを利用いただいていたみなさんからいただく支援は、地域療育の最も大きな力となります。近年、教育や就労で移行支援の重要性が強調されてきておりますが、当センターの懇談会も、ライフステージの移行期、最終的には就労をテーマにご本人に参加いただき、学び合えることを目標にして継続、発展させていきたいと考えております。

今回の懇談会では学校外での生活についても話題が広がりました。すべての子どもが希望に満ちて入学式をむかえ、安心して楽しい学校生活を送っていただける地域を、地域のみなさまとのつながりの中で目指していきたく存じます。

最後になりましたが、このたびの大震災に被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。また、各地で避難生活を送られている方々をはじめ、地域の復旧支援活動等さまざまなかたちで尽力されておられるみなさまの安全とご健康を心よりお祈り申し上げます。

❖ 北部地域療育センターにおける「通常学級就学保護者懇談会」について ❖

療育センターでは次年度就学を控えている子どもさんをお持ちの保護者向けに各種の講演会、学校見学会や研修会、懇談会を企画しスムーズな学齢期移行支援に努めています。

これらの支援の一環として、就学後の状況について語りあう懇談会を今年度から開催しました。懇談会では、今枝所長を囲んで保護者の方々の「迷い」「悩み」が話され、同時に、子どもたちが学級に溶け込み先生やお友達とうまくやっていくために工夫されたことなども話題となりました。初めての試みでしたが、大変有益な会となりました。本号では、この懇談会の様子についてお伝えします。



【事前アンケートから】

短い時間を有効に活用するために、事前アンケートを記入してもらいました。主な意見を紹介します。

1. 「小学校に入学して『良かった』』と思うこと」を挙げてもらいました。

- 自覚が持てたのか、おしっこの失敗や夜尿が全く無くなった。
- 時計を見たり、チャイムを聞いて切り替えができるようになった。
- 程よく放置され、集団に揉まれているし、友達が増え、興味の範囲も広がった。
- 頑張っている姿が見られる。

2. 「入学して困ったこと」を3点に限定して挙げてもらいました。

- トワイライトスクールで、なかなか理解してもらえないところがある。
- 忘れ物が多く学校からの連絡事項がなかなか母に伝わらない。
- 授業に集中できなかつたり、お喋りしていることがある。



【懇談会の話題から】

懇談の中では次のような内容が話題となりました。

1. 今、気がかりなこと

- 心配していたが落ち着いて通学している。子ども自身はかなり我慢しているのだろうか。
- 担任の先生からは、問題なく大丈夫ですよとか、普通ですよと言われる。学級集団として問題ないと担任には見えるだけで、うちの子を個別で見ると、教科学習や集団活動について行けているのか、とても心配になる。
- 学校の先生から利き手を直したらどうかと言われ、当惑している。

2. 担任の先生と上手くやっ行くアイデア

- 連絡帳については、担任の先生は学級全員の児童のことを把握しなければならないし、先生の忙しさを思い、なるべく簡素な内容でのやりとりを心掛けている。先生からの往信も簡素に記入できるように工夫している。
- 水洗トイレの音を怖がるこだわりがあるので、入学前は学校の水洗トイレのことが心配だった。担任の先生が一番最初にトイレを案内してくれて「学校にはすごいトイレがあるんだよ。みんなのために掃除をしてくれるトイレなんだよ。」と水洗トイレの説明をしてくれた。その一言で学校の水洗トイレを怖がらなくなり、こだわることなくトイレに行けるようになった。先生が子どもの特徴を理解してくれて、子どもに解りやすい言葉で話してくれたことがよかった。

【今枝所長から】

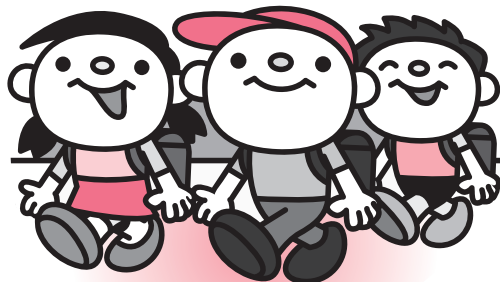
療育センターに係っていることのメリット、小学生の小児科診察時に心掛けていること、の二点について話がありました。



- センターでフォローされていることを担任の先生に知ってもらおうと、親が積極的に子どもと向き合っている様子を学校の先生に理解してもらえる。また、担任の先生が対応に困った際に学校と保護者の関係でセンターがクッション的な役割を担うことができる。
- 高学年になるにつれ、医師と本人の対話が可能になってくる。子ども自身の自己認識を深めるうえで、幼少期からの歴史を医師から客観的に聞くことも有効である。また、診察の中で、母が子どもを想って子育てをしてきたことについて本人に伝えて行きたいと思っている。

【まとめ】

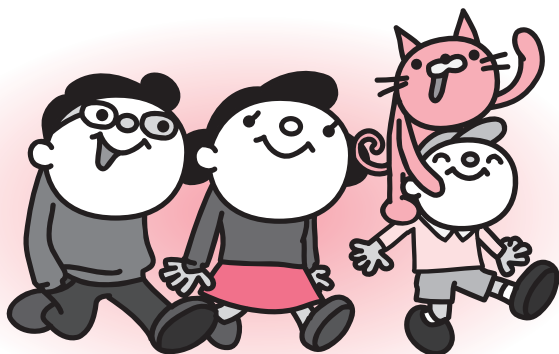
12名の保護者の方と、センターからは所長、ケースワーカー、保健師などの専門職が参加しての懇談会でした。事前アンケートを記入してもらい、その後自由に保護者に思いを話してもらいました。子ども一人ひとりの「強い個性」や学校の取り組み方などは、それぞれで大きく異なっています。懇談会の話題は、様々な方向へと広がって行き、親御さんごとに、学校ごとに、色々な工夫がされていました。その工夫によって、子どもたちの毎日の学校生活が支えられ、楽しく通学できている様子がわかりました。



【懇談会を終えて】

楽しい学校生活の様子とともに、「大丈夫、普通ですよ」と先生から言われることでかえって親御さんの心配が大きく膨らんでしまっていることも話されました。子どもたちの「強めの個性」がゆえに親御さんの心配もかさむのでしょうか。学齢期になると、発達的にも社会環境的にも新しい課題に子どもたち自身は直面せざるを得ません。学校の外（学童保育、トワイライトスクール、塾、お稽古など）でも学校の中でも子どもたち自身が自力で取り組まなければいけないことは増えて行くでしょう。「強めの個性」がゆえに、ぶつからざるを得ない壁も多いかもしれません。学校教育をとりまく環境は5年前に

比べると大きく変わってきたと聞きます。親御さんが学校の先生を信頼し、センターなどの専門機関を利用しながら、多面的に多様な方法で子どもたちと関わり、子どもたちの成長を見守っていくことが出来るように、また、子どもたちが学校生活だけでなく余暇活動を楽しむことができるように、療育センターは子どもたちと親御さんを支えて行くことが課題となります。子どもたちが楽しい学齢期を過ごせるよう、家庭、学校、センターが力を合わせて協働する必要性をより強く感じました。



並行グループ就学体験発表

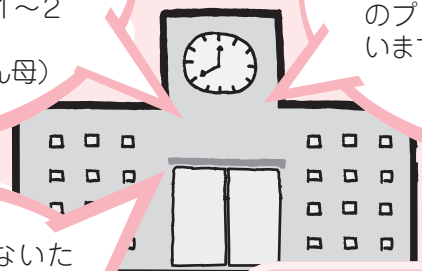
並行グループは、保育園、幼稚園に通っている年少～年長のお子さんの親子教室です。発達に偏りがあったり、集団からはずれやすかったり、場面に集中することが苦手などのお子さんを対象にしています。7月に年長のグループの保護者向けに、並行グループOBの新1年生3名の保護者が就学体験発表をしてくれました。

周りの人に障害のことを言っていないので、小学校に見学や面接に行くのに戸惑いがありました。療育センターからアドバイスされたことをしっかり伝えました。B小学校には支援学級がないため、トライルームというマンツーマン授業を行ってくれるクラスに週1回1～2時間通っています。

(通常学級 Cくん母)

就学前の見学や面接は、姉がすでに通っている小学校だったため、特に抵抗はありませんでした。園時代からの仲の良い友だちがいて、クラスの雰囲気もいいです。勉強は、数字は書けませんがひらがなが書けず、特別支援学級のプリントを特別にもらって勉強しています。

(通常学級 Aくん母)



D小学校には特別支援学級がないため、いくつか見てE小学校に決めました。畳のスペースや手洗い・シャワーが教室内にあります。7月からは体育・音楽と給食は通常学級に行っています。姉とは違う小学校なので、行事など重なるときなど大変です。

(特別支援学級 Fさん父)

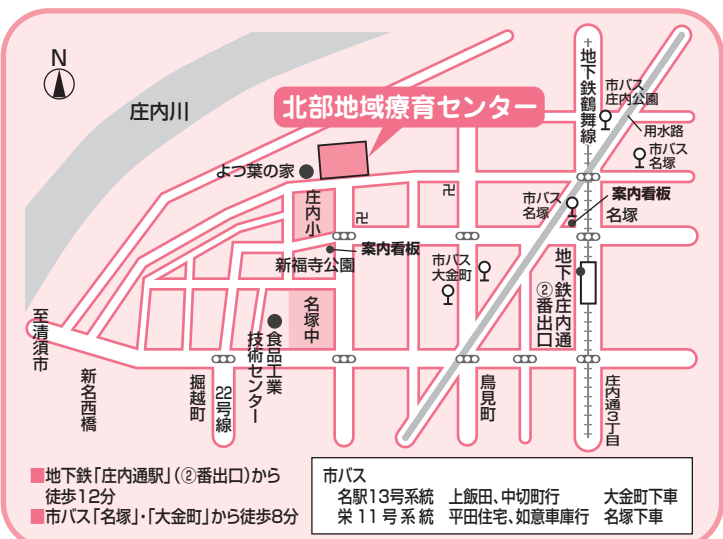
当日は15名のお父さん・お母さんの参加があり、「学校に入っていじめられたら心配」「分団登校で行けるのか心配」「E小学校にした決め手は？」等の質問が出て、3人の発表者の方に丁寧に答えていただきました。

*** ボランティア募集中 ***

センターでは保育活動のお手伝いをいただける保育ボランティアを募集しています。

- ◎保育活動のお手伝い
(室内の活動や、園外への散歩など一緒に活動します)
- ◎センター行事のお手伝い
(運動会、夏まつりなど)
- ◎通園児の弟妹の保育
- ◎教材作りや環境整備など

短期間、短時間でもかまいません。現在、学生さんから主婦の方まで活躍中です。お気軽に下記までお問い合わせ下さい。



名古屋市北部地域療育センターだより 第4号

発行日 2011年10月1日
 編集・発行 名古屋市北部地域療育センター
 〒451-0083 名古屋市西区新福寺町2丁目6番地の5
 TEL (052) 522-5277 FAX (052) 522-5279